

# 美術科学習指導案

指導者 鳥取大学附属中学校 木村信一郎  
共同研究者 鳥取大学 地域学部 筒井 宏樹  
鳥取大学 地域学部 中尾 泰斗  
鳥取県立博物館 佐藤 真菜  
山本 亮  
外村 文

日 時 2022年7月2日(土)

対 象 第1学年D組

会 場 多目的室

## 1. 題材名 「作品との対話 ～見る・入る・知る～」

## 2. 美術科の取り組みの概要

美術科研究テーマ

「作品との対話—多様な視点で物事を見つめ、その世界観を深める力—」

「作品(作者：私・他者＝思い)との対話」

「作品との対話」。「対話」とは、“向かい合って話し合うこと。また、その話。”と意味があるように、互いに顔を見合わせ、声で会話する活動のようにとらえられることが多いであろう。ここで私があげる「対話」とは、アメリカ・アレナス氏が提唱した“思考能力、対話能力の向上を目的に実践される対話による美術作品の鑑賞法”(＝対話型鑑賞)<sup>註1</sup>を示している。たとえば、鑑賞活動であれば、級友、先輩、後輩の作品に対して、直接的であったり、間接的であったり、方法は様々であるが、自分が感じ取った作品への思いを送る活動は、作品を介した「他者との対話」といえよう。教科書や直接出会えない作家たちの作品について考える活動も「作品(＝他者の思い)との対話」と考えることができる。また、制作(表現活動)も「対話」と捉えて授業展開を行っている。例えば、これから描こうとする白い紙、形を作ろうとする素材がなるべく姿、色はなんだろうと自分自身に投げかける表現活動は、作品を介して自分自身の思いを探る「私との対話」と考えることができる。

美術科には、表現と鑑賞の二領域があり、学習指導要領においては、〔共通事項〕を置くように、表現と鑑賞の一体化も定められている。鑑賞には、自他の作品などについて考えや思いを深く追求する活動があるが、それには、「個でじっくりと味わい、考えること」のみならず、「他者と考えや思いを共有し、高めること」が美術教育には求められていると考える。表現も同様のことが言え、自己の満足で終わるものではなく、作品への思いを他者に伝え、共有し、自己の心理を深く見つめ、その世界を表現しようと追求することが必要であると考え。つまり、鑑賞と表現はどちらも同じく、自分と他者との関係の中で高められるものであると言える。これまで身に付けた知識、技能を駆使し、また、自己発信、他者理解を繰り返す中で、一方的な見方に捕らわれず、新たな見方を生徒同士が共有しながら、その原理や物事の本質を理解させていきたい。

註1: 『なぜ、これがアートなの?』、アメリカ・アレナス(福のり子訳)、淡交社、1998『まなざしの共有 アメリア・アレナスの鑑賞教育に学ぶ』、上野行一監修、淡交社、2001

## 3. 授業構成

### (1) 教師と教材

本題材は、学習指導要領の以下の点を主とする学習である。

B鑑賞(1)－ア－(ア)「造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げるこ

これまで、鑑賞の授業の多くは、教科書や図録、美術資料集などに掲載されている作品及びスライドで映し出した作品など、映像や印刷物を通して行ってきた。本来ならば美術館等に行き、展示されている実物の作品から、

筆跡、色などをじっくりと鑑賞するほうがよいことは明らかである。今回は博物館の協力により、鑑賞ツール「Walk View」を使用した教育連携授業である。教室で作品に没入したかのような体験が可能な鑑賞ツールでじっくりと鑑賞することは生徒にとっても新鮮であり、作品に出会う感動を味わえると考え。また、本学年は現在「粹- iki -雅- miyabi -」と題して、紋や和柄を素材とした平面構成の作品に取り組んでいる。紋や和柄の形のおもしろさや特徴に触れ、自身が抱く「粹」「雅」を考えながらそこに色を添えて進めている。学習過程も中盤を越え、色と形の組み合わせ、作品全体の構想について考える過程をより深めようと本時の[入る]活動を設定している。

### (2) 子どもと教師

本学年は、鑑賞と表現の活動において、自身の思いを追究しながら、表現しようと意欲的に取り組む生徒が多い。ただ、その思いを個人の活動としてとらえる傾向がある。そこには、年度当初の教科アンケートより、小学校時における鑑賞活動の少なさが1つの要因としてあると考える。本題材では、普段から生活の多くの時間を共有してきた生活班を中心に活動を展開していく。その過程の中で、自分だけの一方的な見方ではなく、級友からの新たな視点を共有し、高め合う活動を実践しながら、作品を深く見つめる楽しさに気づかせたい。また、その活動で得た視点を自分の作品に置き換えるなど、自他の作品について深く味わう感覚を身につけさせたい。

### (3) 子どもと教材

本校では、これまで、生徒同士の作品の鑑賞のほかに、作品の内側に立ち、作者の思いを読み取る活動「みる・なる・しる」を行っている。註2本学年では「モナ・リザ/レオナルド・ダ・ヴィンチ作」をスライドや教科書を参考に行ってきた。今回は郷土に由来する作品を使用した初めての鑑賞活動となる。本授業は、博物館の鑑賞ツール「Walk View」を使って、各班で作品について考え、全員に話す中で、意見を共有し、高める活動である。それらの活動を通して、美術作品に関心を持ち、理解を深め、自分の価値意識をもって自主的に味わうことをねらいとする。また、各班での話し合いによって生まれた作品に対する印象や考えを語る活動の中で、個々の価値意識を持ち、互いの考えを共有しながら味わう鑑賞の楽しさを実感させたい。

註2:鳥取大学附属中学校研究紀要 No.52 美術科「作品との対話」2020

## 4 本時について

### (1) 本時の目標

作品の印象や直感を大事にしながら、形や色彩などの特徴や印象などから、全体のイメージを捉え、本質的なよさや美しさ、表現の意図や創造的な表現の工夫について考えるなどして、見方や感じ方を深める。

### (2) 評価基準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
・形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。	・造形的なよさや美しさを感じ取り、表現の意図や創造的な工夫について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	・美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に作品の本質的なよさや美しさを感じ取り、表現の意図や創造的な工夫などを考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

### (3) 期待される生徒の様相

A：表現の工夫や意図などを想像するなどして、自分の価値意識をもって作品を味わうことができ、友達の意見を聞き発表するなどの活動を通じてさらに作品の見方を深めることができている。

B：表現の工夫や意図などを想像するなどして、自分の価値意識をもって作品を味わい、言葉や文字で表すことができている。

C：表現の工夫、描かれているものを知り、それらを踏まえて作品を鑑賞しようとしている。

(4) 学習の展開

学習活動	○主な発問 ・予想される生徒の反応	・留意点○評価【観点】 (方法) ※手立て	時間
1.学習のめあての把握をする。(6分)	○この作品には何が描かれていますか。ワークシート①に書き出してみよう。 ・山,太陽,月,花,川,湖,池,木,家,霧,雲,すやり霞…	・スライドに表示された作品を参考に作品の構造を掴ませる。	6/6
2.作品との対話①(6分)	◎対話を通じて作品の世界を深く味わおう ○書き出したことを班で伝えあい、気になるところをワークシート②に書き出してみよう。 ・手前に桜があるのに奥に紅葉が見える。 ・池?湖に人がいるが何をしている?橋がある? ・家に人がいる。 ・月?太陽?大山?富士山?	・少数で意見を交わし、作品への探求心を高めさせる。 ・Walk Viewで鑑賞する視点を掴ませる。	6/12
3.作品との対話②(25分)	○Walk Viewを使って作品の中に入りながら気になる箇所に近づいてみよう。 ・山や霧を挟んで季節が変わっている。 ・手前と奥の生活が異なる。 ・人物それぞれの姿・表情がわかる。 ・位置関係が時間軸と重なっている。	・Walk View体験者に限らず周りの意見を拾う。 ○美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に作品の本質的なよさや美しさを感じ取り、表現の意図や創造的な工夫などを考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 (観察, ワークシート)※意見交換の中で友達の考えを受け止め,考えに近いものを記入するように指示する。	25/37
4.作品との対話③(8分)	○体験してわかったことをワークシート③に書き出してみよう。 ・山や霧を境に異なる時間が画面に収められている。 ・描かれた当時の美しい場面が凝縮されて描かれている。	・③を記入しながら班で話し合う中で共有し発表する。	8/45
5.本時のまとめをする。(5分)	○今日の活動を振り返ってみましょう。 ・作品を見る新たな視点を見つけることができた。 ・作品の内側に入る感覚でほかの作品を見ていきたい。	・ワークシートの項目に記入させ、この体験を一つにこれから出会うべく作品との対話・学びを楽しむことを押さえる。	5/50
6.授業外：題材が終了後		○形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。 【知識・技能】(ワークシート) ○造形的なよさや美しさを感じ取り、表現の意図や創造的な工夫について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。 【思考・判断・表現】(ワークシート)	